

## 北海道大谷学園連合会自主(第三者)評価報告書

1. 評価対象校 北海道大谷室蘭高等学校
2. 訪問調査日 令和1年12月9日(月) 10:00~12:00
3. 会 場 北海道大谷室蘭高等学校校長室
4. 出席者 北海道大谷室蘭：竹本校長先生、南條教頭先生、庭田事務長  
函館大谷：丸山政秀(校長)、木戸口靖之(教頭)
5. 北海道大谷室蘭高等学校の概要
  - ・設置者 学校法人 望洋大谷学園
  - ・理事長名 西崎 習一
  - ・校長名 竹本 将人
  - ・所在地 北海道室蘭市八丁平3丁目1番1号
  - ・設置学科 普通科

## 調査結果

### 〔校舎について〕

校舎内 各エリアはゆったりとした開放的な空間で、HR教室以外にフリースペースなどが充実しており、特別活動や行事に向けた取り組みなど様々な生徒活動がのびのびと展開でき、生徒の日常生活を充実したものにしていると思う。

教室の廊下側窓が広く、普段の生徒の様子がよく見え、生き生きとした表情や雰囲気が見ることができた。また、職員室の窓も同様に広く作られており、生徒との距離が近く感じることができて学校全体として一体感を感じた。

訪問した日は学校行事「成道会」が行われており、見学させてもらった。会場である講堂は全校生徒が十分に入れる広さがあり、講演してくださる方の様子やホワイトボードがきちんと見えるように後方を階段状にするなどの配慮もされていた。

### 〔教育目標・学校目標について〕

先ず教職員に対し「教職員研修会」「学習会」を定期的実施し、建学の精神の具現化を目指している点が評価できる。また、その成果として宗教行事に向かう生徒・教職員の姿勢が素晴らしく、学年代表者の感話なども実施できるなど、生徒・教職員の双方に対し建学の精神の理解と共感を促すよう取り組んでいることが伺える。

また生徒には、より親しみやすいよう校内の様々なところに「教育スローガン・法語ポスターの言葉」である「きょうも会えたね あしたも楽しみ」のスローガンが掲示してあり、来校したすべての人の目に留まるようにしている点が高く評価できる。

### 〔分掌について〕

入学する生徒のほとんどが明確な目的意識を持って入学しており、過去3年間の退学者数が学校全体で9名と少なく、生徒募集の成果と言えるのではないかと。また、学業委員会において生徒一人一人の状況を把握し情報共有されており、いち早く状況に応じた対応がなされている点も一つの要因として考えられ、高く評価できる。

講習に関しては約9割の部活所属生徒への配慮として18:30～19:20の時間帯に設定し、参加しやすくしている点が高く評価できる。

部活動に関しては体育館の老朽化問題やバス移動の負担などの課題があり、できるだけ早急に課題解決に向けての取り組みが必要と思われる。

### 〔管理運営について〕

財務状況は組合をとおして教職員に周知されるとのことだが、理事会または校長が直接教職員に財務状況を説明する機会を設け、理事会と教職員が一体となって財務を改善する機運を高めることもひとつの方法ではないだろうか。

### 〔財務について〕

室蘭大谷高等学校と登別大谷高等学校の統合校であり、統合時に両校の全教職員を雇用したという事情がありながら、令和元年度の教職員数は本務教員 26 名、本務職員 4 名と標準教職員数（本務教員 29、本務職員 5 名）を下回る構成となっている。また、平成 30 年度の人件費比率は 62% であり、健全と言える。

経常収支差額は平成 30 年度が 12,149,959 円、平成 29 年度が 12,754,776 円の収入超過となっており、収支も健全といえるが、校舎建築にあたっての借入、4 件合計 770,000,000 円を最長 20 年にわたって返済する計画となっており、平成 30 年度ではこの返済額が生徒納付金収入額と同規模であるなど、資金繰の苦勞も見て取れる。入学検定料および学納金の見直しを図っているとのことであるが、少子化による生徒数の減が避けられない見通しの中、より確実な収入の確保が望まれる。

財務状況は組合をとおして教職員に周知されるとのことだが、理事会または校長が直接教職員に財務状況を説明する機会を設け、理事会と教職員が一体となって財務を改善する機運を高めることもひとつの方法ではないだろうか。

### 〔改革・改善について〕

年に 3 回の中間総括を分掌・学年で行い、年度方針に沿った実施になっているかを点検しながら進めている点が高く評価できる。

また、教員の自己評価についても年度全般を評価できるようにと時期を遅らせたり、教員の評価項目を 4 分野 27 項目、職員は 2 分野 15 項目で評価を行うことにより、自己評価をきちんと把握しようとしている点は本校でも見習わなければならない点だと感じた。

以上、今回の調査訪問で多くのことを学ぶことができました。これからの校務運営の参考にさせていただきます。ご対応いただきました竹本校長先生、南條教頭先生、庭田事務長には、多くのご助言をいただき誠にありがとうございました。感謝申し上げます。